令和４年度　　印旛地区教育研究集会

生活科分科会　　提案資料

研究主題

【研　究　主　題】

学ぶことを楽しみ，
主体的に考え，活動する児童の育成
―具体的な活動や体験を通して，
気付きの質を高める生活科授業の在り方―

第一部会　佐倉市立根郷小学校

畠山　幸子

小泉　京子

目次

1　研究の全体構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

2　研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

3　主題設定の理由

（1）社会的な課題から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

（2）学校教育目標から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

（3）児童の実態から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

4　目指す児童像について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

5　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

6　具体的な手立て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

7　授業実践例

令和３年度　第１学年実践「かぜと　なかよし」・・・・・・・・・・・・・・・9

１年１組実践「よく　とぶ　かみトンボをつくろう」・・・・・・・１０

１年３組実践「よく　とぶ　かみひこうきをつくろう」・・・・・・１８

令和４年度　第２学年実践

２年３組実践「つくる楽しさ　はっけん」・・・・・・・・・・・・・・２４

8　児童アンケートと教師の評価による考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

9　成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

1．研究の全体構想

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領

学 校 教 育 目 標

成徳・進取の心を育て，一人一人の豊かな個性を伸ばす教育

思いやりの心を持ち，みんなのために働くことに喜びを感じる子ども
新しい学びに挑戦し，学びを生活に生かせる子ども
運動することを好み，健康な体や生活に関心を持てる子ども

学校の実態
児童の実態
地域・保護者の願い
教師の願い
社会の要請

↓

【研 究 主 題】

学ぶことを楽しみ，主体的に考え，活動する児童の育成
―具体的な活動や体験を通して，気付きの質を高める生活科授業の在り方―

↓

仮説１
　児童の思いや願いを大切にした活動や体験ができる場を工夫すれば，学習活動に主体的に関わり，気付きの質を高めることができるであろう。
仮説２
　振り返り，伝え合う場を工夫すれば，主体的に考え，気付きの質を高めることができるであろう。

＜手立て＞

↓

仮説１
・実態調査を生かし，児童の思いや願いを大切にした場を工夫する。
・身近にあるものを用意し，生活体験を生かして取り組めるようにする。
・繰り返し関わり，試行錯誤できる場と時間を確保する。
仮説２
・自分の思いを言葉や絵で表現する場や，めあてや活動を振り返る場を設定する。
・学習形態（グループ・全体）を工夫する。
・気付きや発見，思い，工夫を広め，深める場を設定する。

↓

具体的な活動や体験に積極的にかかわり，いろいろな気付きをもてる子
活動を通して学び合い，気付きの質を高める子
それまでの気付きや既有の知識を基に新たな気付きを見出す子

2．研究主題

学ぶことを楽しみ，主体的に考え，活動する児童の育成

―具体的な活動や体験を通して，気付きの質を高める生活科授業の在り方―

3．主題設定の理由

（1）社会的な課題から

経済・文化のグローバル化は社会に多様性をもたらし，急速な情報化や技術革新は生活を質的にも変化させつつある。また新型コロナウィルスの感染拡大など，未来や将来の予測をすることが困難になっている。このような現状の中，一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識

するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えることが求められている。さらに，社会の成長・発展につながる新たな価値を生み出す力を身に付け，豊かな人生を切り開き，持続可能な社会の担い手となることができるようにすることが求められている。

これを受けて生活科の学習指導要領では，幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等の学習との関連性，中学年以降の学習とのつながりも踏まえ，具体的な活動や体験を通して「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし，自立し生活を豊かにしていくために育成する資質・能力（特に思考力・判断力・表現力等）が具体的になるよう示されている。

そこで，具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え，気付きを確かなものとしたり，新たな気付きを得たりするようにするため，活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現して考えたり，「見付ける」，「比べる」，「たとえる」，「試す」，「見通す」，「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりすることを重視するとしている。

これらを踏まえ，本校では，具体的な活動や体験を通して，気付きの質を高める生活科授業の在り方について研修し，その中で思考力や判断力，表現力の基礎を育てていきたいと考え，本主題を設定した。

（２）学校教育目標から

成徳・進取の心を育て，一人一人の豊かな個性を伸ばす教育 思いやりの心を持ち，みんなのために働くことに喜びを感じる子ども 新しい学びに挑戦し，学びを生活に生かせる子ども 運動することを好み，健康な体や生活に関心を持てる子ども

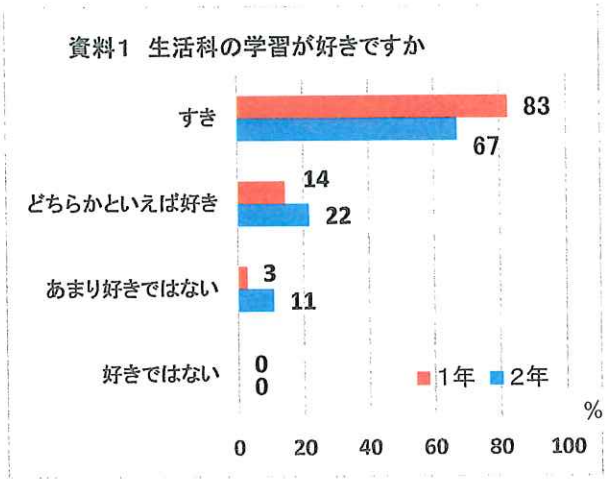
本校では，「成徳・進取の心を育て，一人一人の豊かな個性を伸ばす教育」を学校教育目標に掲げている。「成徳・進取」は，佐倉に残る伝統的な教えで，「成徳」とは「学問をするとは，己の道徳性を高め，社会に貢献することである」という思想である。また，「進取」とは佐倉藩校成徳書院の校訓であった「積極進取」に由来している。これを「挑戦する」という意味に置き換え，「未知なるものに挑戦する」とし，校訓を「進取の心」と定めている。本校では，佐倉に残る先人から受け継がれた「積極進取」の心を大切にするとともに，併せて佐倉に残る「成徳作用」の言葉のとおり，高い道徳性を持ち，社会に貢献できる人材育成の理念を大切にした指導を行っている。「成徳・進取」の心により，生きる力を育み，個性を大切にしながら，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指している。生活科の学習においても，体験や活動を重視し，自分の力で考え，解決する過程を重視した学習を進めていくことで，獲得していく知識が確かなものとなり，学校教育目標の達成につながるものと考える。

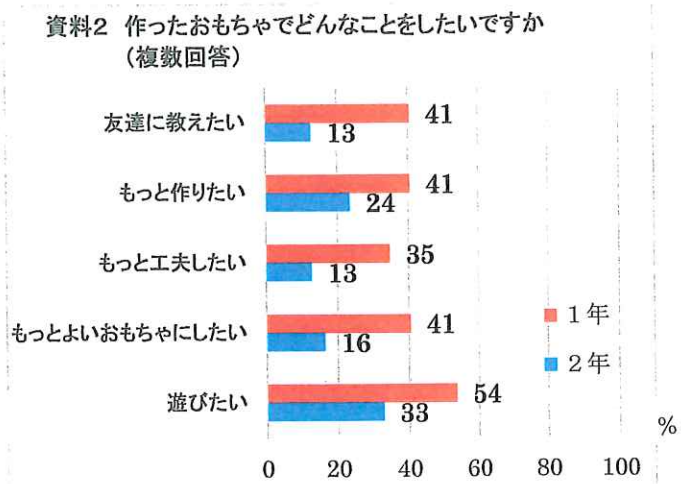
（３）児童の実態から

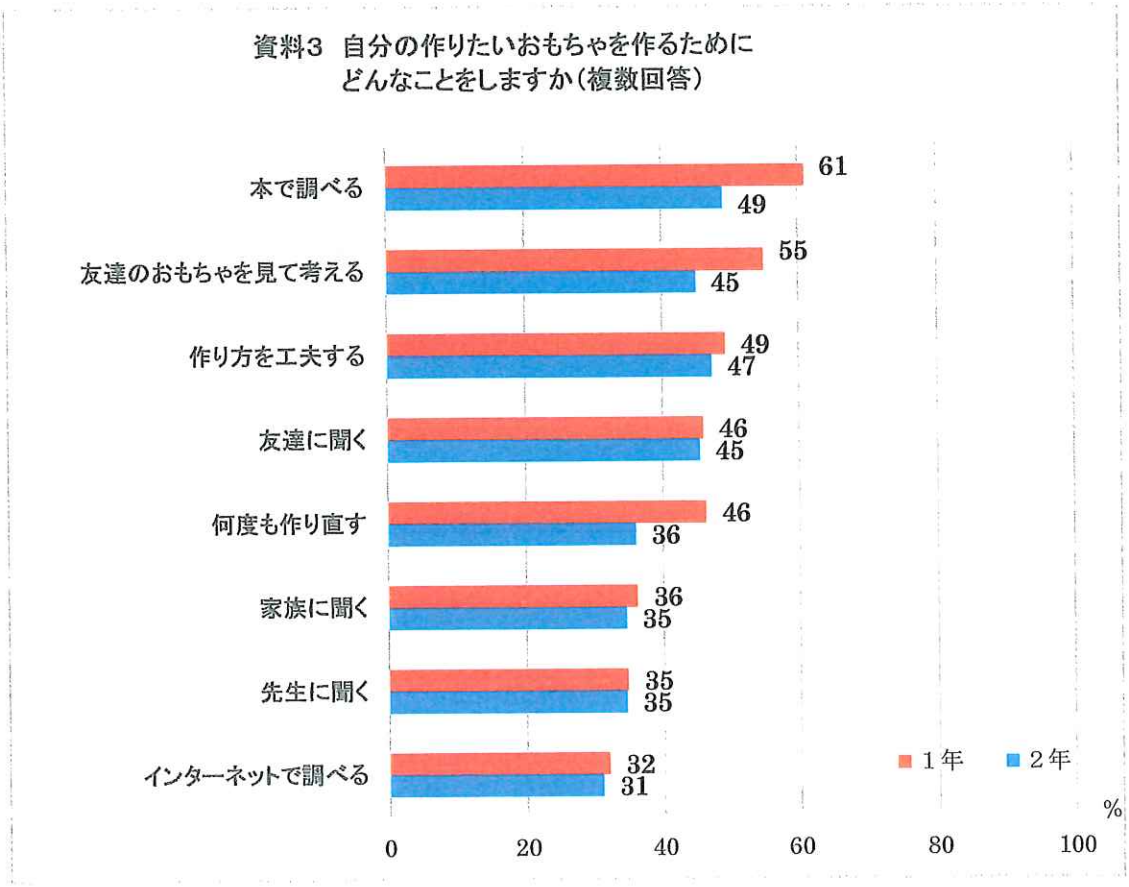
本校の児童は，明るく素直であり，学習に対する意欲は高い。しかし，学力面では低い児童が多く，取り組み方や理解の仕方などにおいて個人差が大きいため，個に応じた指導も必要である。

令和３年度の１・２年生の児童にとった生活科の学習についてのアンケート結果を見ると約９０％の児童が「生活科の学習が好き・どちらかというと好き」と答えている。（資料１）

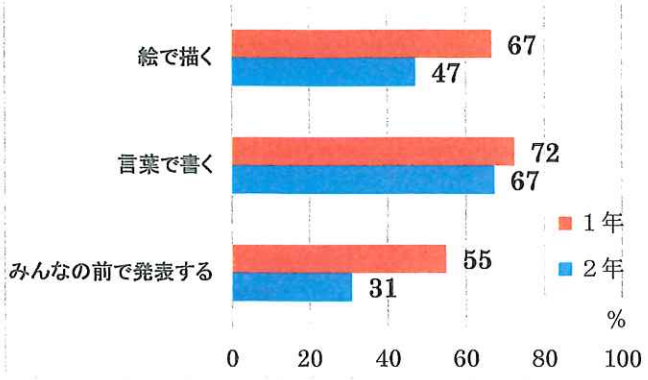
昨年度，１学年では，試行錯誤しながら課題解決することがし易いおもちゃ作りの活動に的を絞って授業研修を行ってきた。資料２から，昨年度の１年生は，おもちゃを作った際にもっと試してみたいという意欲が高いということがわかる。また，自分の思いを大切にさせ，作りたいおもちゃを作るという活動を重視したことから，自分の思いや願いを実現させるための手立てを探ることに意欲的な児童が多いといえる。（資料３）



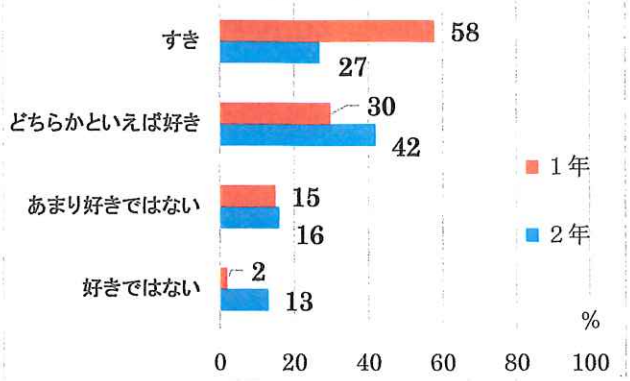




資料4　わかったことや思ったことをどのように伝えるのが　好きですか（複数回答）



資料５　わかったことを友達と伝え合うのは好きですか



また，わかったことや思ったことをどのように書くことが好きかという問いに対しては，約７０％（資料４）が言葉で書くことが好きと答えている。友達とわかったことを伝え合うことが好きかという問いに対しては，１年生は８８％，２年生は６９％の児童が好き・どちらかというと好きと答えている。（資料５）わかったことや思ったことを言葉で書いたり，絵で描いたり，発表したりするなど表現することに対して意欲的な児童が多いということがわかる。

しかし，児童の実態を見ると，友達と自分の気付きと比較し，共通点や相違点に気付いたり，自分の気付かなかったことにも気付いたりして気付きの質を高めるような活動には至っていない。コロナ禍で十分なグループ活動ができなかったということも原因の一つである。緊急事態宣言が解除された令和４年度は，振り返り，伝え合う場を工夫することにも重点を置き，気付きの質を高める生活科授業の在り方を模索することとした。

４．目指す児童像について

<u>学ぶことを楽しみ，主体的に考え，活動する児童</u>の姿とは

・具体的な活動や体験に積極的にかかわり，いろいろな気付きをもてる子
・具体的な活動や体験を通して学び合い，気付きの質を高める子
・それまでの気付きや既有の知識を基に新たな気付きを見出す子

「具体的な活動や体験」とは

・見る，聞く，触れる，作る，探す，育てる，遊ぶなどして対象に直接働きかける学習活動
・活動の楽しさや気付いたことなどを言葉，絵，動作，劇化などの多様な方法によって表現する学習活動

「具体的な活動や体験を通して」とは

・児童が対象と直接関わり，対象とのやり取りをする中で，資質・能力を育成すること。
・具体的な活動や体験の充実を促すとともに，言葉などによる振り返りや伝え合いの場を適切に設定すること。

「気付き」とは

・対象に対する一人一人の認識であり，児童の主体的な活動によって生まれるもの。
・知的な側面だけではなく，情意的な側面も含まれる。

「気付きの質が高まる」とは，

・無自覚だった気付きが自覚されたり，一人一人に生まれた個別の気付きが関連付けられたり，対象のみならず自分自身の気付きが生まれたりすること。
・比べたり分類したりすることによって，ある気付きと別の気付きとの共通点や相違点，それぞれの関係や関連が確認されること。

５．研究仮説

仮説１

児童の思いや願いを大切にした活動や体験ができる場を工夫すれば，学習活動に主体的に関わり，気付きの質を高めることができるであろう。

仮説２

振り返り，伝え合う場を工夫すれば，主体的に考え，気付きの質を高めることができるであろう。

本校では，具体的な活動や体験を通して，生活体験を基に自分なりに考え，振り返り，伝え合うことで気付きの質を高めることができるのではないかと考えた。

生活科において、児童が主体的に学習対象と関わっていくためには，学習対象への意欲・関心を高め，学習の原動力となる思いや願いをもつことができるようにすることが重要である。そのため，実態を把握し，思いや願いをもつための導入場面の工夫や，思いや願いを発展させ，その実現を図るための学習活動の工夫をする。児童の心に「やりたい」「できるようになりたい」といった切実な思い，つまり「必然性」が高まったとき，児童はこれまでの経験や様々な情報から解決・達成するための方策・工夫を考え出す。

そのために，生活科においても問題解決的な学習を取り入れ，対象に繰り返し関わり，試行錯誤する場を設定すればよいのではないかと考えた。試行錯誤して何度も挑戦したり，活動を繰り返したりすることは，気付きの質を高めるとともに，事象を注意深く見つめたり，予想を検証したり，解決方法を見出したりすることになる。

また，言葉や絵で表現し，活動や体験を振り返ることで，無自覚であった気付きを明確にすることができると考える。さらに，友達とお互いの気付きを伝え合うことで，自分の気付きと比較し，共通点や相違点に気付いていく。また，自分の気付かなかったことにも気付いていく。そして，より一般化された気付きや多面的な気付きへとその質を高めていき，それが満足感，成就感，自信などの手応えとなり，次の体験への安定的で持続的な意欲につながっていく。生活科において，気付きの質を高めることが「深い学び」につながることができると考える。

６．具体的な手立て

児童の思いや願いを大切にした活動や体験ができる場を工夫すれば，学習活動に主体的に関わり，気付きの質を高めることができるであろう。	振り返り，伝え合う場を工夫すれば，主体的に考え，気付きの質を高めることができるであろう。
・児童の興味・関心の実態把握 ・思いや願いを大切にし，意欲や主体性を高める学習活動の工夫 ・身近にあるものを活用し，生活体験を生かした取り組み ・具体的な活動や体験に繰り返し関わり，試行錯誤できる場と時間の確保	・自分の思いを言葉や絵で表現する場や，めあてや活動を振り返る場の設定 ・学習形態（グループ・全体）の工夫 ・気付きや発見，思い，工夫を広め，深める場の設定

生活科の学習過程

授業の工夫・手立て

気付きの質の高まり

関連付けた気付き

・比べる
　〇くんはクリップ２個，ぼくは３個。
　どちらがよく飛ぶかな。
・振り返る
　ゴムを使うと，いろいろな跳ぶおもちゃが作れるんだ。
・思いや願いをもつ
　今度はゴムの力をつかってタイヤを回すジェットカーを作ってみたいな。

④表現する・行為する
（伝え合う・振り返る）
　互いの気付きを比較したり関連付けたりして，新たな気付きを見出す。

振り返り，伝え合う場の工夫
・自分の思いを言葉や絵で表現する場や，めあてや活動を振り返る場の設定
・学習形態（グループ・全体）の工夫
・気付きや発見，思い，工夫を広め，深める場の設定

・たとえる
　風車の羽は扇風機みたいだ。
・見付ける
　折り方を扇風機みたいに斜めにすると，よく回ったよ。

③感じる・考える

・見通す
　ぴょんぴょんガエルの時のようにゴムを２本にするとよく飛ぶかな。
・試す
　この材料を使ってみよう。
・工夫する
　もっと固い紙に変えてみよう。

児童の思いや願いを大切にした活動や体験ができる場の工夫
・児童の興味・関心の実態把握
・思いや願いを育み，意欲や主体性を高める学習活動の工夫
・身近にあるものを活用し，生活体験を生かした取り組み
・具体的な活動や体験に繰り返し関わり，試行錯誤できる場と時間の確保

気付きを自覚

②活動や体験をする。
　思いや願いをもとに，活動や体験の中で試行錯誤を繰り返し，いろいろな気付きをもつ。

楽しそう。作ってみたいな。
もっと高く飛ばしたいな。

①思いや願いをもつ
　学習対象に興味をもって，積極的にかかわり，思いや願いをもつ。

無自覚な気付き